

平成23年度 学力向上アクションプラン

唐津市立巖木小学校

1 テーマ：しっかり勉強・規則正しい生活

2 現状

(1) 平成23年度唐津地区基礎学力テストの状況

	国語得点平均		算数得点平均	
	4月12日	9月2日	4月12日	9月2日
1年		99.44		98.33
2年	98.06	90.67	98.89	88.61
3年	100	97.08	99.23	99.23
4年	97.60	91.47	97.67	85.33
5年	97.77	98.31	95.77	95.77
6年	98.33	98.44	92.67	97.50

3 主な取組

(1) 成果指標

国調査、県調査とも全ての教科領域で平成22年度以上かつ県平均以上とする。

唐津市基礎学力テストにおいては、全員合格をめざす。

(2) 課題認識

全校共通課題

○国語に関しては、読解力が十分ではなく、特に長文の問題に抵抗感をもっている。

○算数に関しては、数学的な考え方（論理的思考力）が十分でなく、式や言葉を使って考えたり、説明したりする力の育成が必要である。

○県調査（意識調査）では、テレビやゲームの時間がやや多く、家庭で読書に親しむ時間の確保が必要である。

(3) 改善に向けた取組

一つ目は、個に応じた「読み・書き・計算」の計画的・継続的な指導により、「やればできる」の実感をもたせる。

二つ目は、国語において、読解力の向上をめざし、まず読書活動の活性化に取り組みたい。1年間に平均100冊以上を目標に自主的な読書活動及び読み聞かせ活動や音読の工夫により学年に応じた読み取りの場を確保していく。次に、初見の文章に対応できるよう、読書活動と関連した授業づくりを考えていく。

三つ目は、算数において学び合いの場を工夫・充実することにより、「算数のよさ」に気付かせるとと

もに数学的な思考力を高め、算数における基礎学力向上へつなげる。

四つ目は、規則正しい生活習慣の確立へ向けて、家庭と連携協力しながら取り組む。

以上の取組により「確かな学力」を育んでいきたい。

また、昨年度から学級の実態により算数において、TT 授業の他に少人数授業を実施してきた。保護者の学校に寄せる期待と児童の意欲に応えられるように、学級の実態に応じて今後も指導方法の改善に努め、成果を上げていくよう職員一同頑張りたい。

2・3学期も授業公開等とおし、保護者の理解も深めていきたい。

具体的には、以下の取組を工夫・実践しながら本校での学力向上対策としたい。

(ア) 日常的な取組

①基礎基本の習得のための取組（「基本的な学習習慣」の形成指導）

- ・筆箱の中は、基本的に鉛筆 5 本(低学年:2B か B, 中高学年:B か HB), 赤鉛筆, 定規, 消しゴム, ネームペン(油性)を入れておく。
- ・ノート(漢字, 国語, 算数)の形式を学年毎に決め, ノート指導(社会, 算数, 理科)の共通化を図る。
- ・授業前の待ち方, 授業中の聞き方, 話し方, 書き方, 授業後の過ごし方を学年の発達段階に応じて取り組む。

②基礎的, 基本的な学習内容の定着

- ・確実に身につけさせたい基礎, 基本(読む, 書く, 言語, 計算, 測定)の学年別指導事項と方策表により取り組む。到達できない児童へは, 個別指導や級外によるスキルタイムでの補助指導を行う。
- ・家庭学習の内容を「基本三点セット(音読, 漢字, 算数プリント)」と自主学習とする。
また, 長期休業中の課題についても「家庭学習の取り組み」をもとに取組を進める。
- ・厳木町の「学習のきまり」厳木町学習連携部の提案をもとに取り組む。
- ・平成 22 年度から設定し取組を進めている, 厳木町内での家庭学習時間を保護者へ周知し, 徹底を図る。学年×10分+20分(1年生は30分・・・6年生は80分)

③基礎学力テストへの取組

- ・間違えた問題に対する個別指導の徹底(TT 授業及び少人数授業等による指導)
- ・反復練習及び補充学習による定着(漢字の学習では, 新出漢字に対して熟語や短文づくりを取り入れた指導も合わせて行う。)

④朝の時間を利用した反復学習, 練習

- ・スキルタイム(金曜日朝)時に漢字の練習や計算の練習を行う。級外職員の補助を定期的に行う。
また, 算数の文章問題を各学年毎に常時準備をし, 専用の棚を共有スペースに配置をすることで個に応じた学習をできる環境を整備する。
- ・表現力養成(ワークシート, レポート課題作文, 一言日記など)を念頭に置いた指導を行う。

(イ) 中学校校区及び家庭での取組

①「家庭学習の手引き」配布による学習習慣の形成

- ・平成 22 年度より厳木町内で「家庭学習の手引き～学力向上につながる家庭学習の進め方～」と題して, 「家庭学習のすすめ」を作成し, 保護者へ配布を行った。保護者の協力を得て, 家庭での学習習慣形成を推し進めていく。

②9年間を見通した小学校・中学校連携

- ・小中連携研修会での共通理解と実践(ノーチャイムの実施)

学習連携部による, 各学年での「身につけさせたい基礎・基本」の指導

生徒指導連携部による, 家庭学習習慣の指導

交流連携部による, 教育相談研修会の実施

- | |
|-----------------|
| ㊦ちんと聞いてしっかり理解 |
| ㊧うきをもって 発表 質問 |
| ㊨っかりするな わすれもの |
| ㊩くに 復習 みやすいノート |
| ㊪りぎり なくして 早めの準備 |